

地域活性化策を提言

茨城大生と高校生プレゼン

茨城大の学生と県内3高校の生徒が地域活性化策を提言する「みんなで考える茨城のシティプロモーション」が24日、水戸市文京の同大図書館で開かれた。6チームがプレゼンテーションに臨み、大学生は水戸レトロ建築の活用などを提唱した。同大、茨城新聞社、県が主催した。

同大と茨城新聞社が連携 シンポジウムは5回目。して同大図書館に地方紙の 人文社会科学部3年生が閲覧コーナーを設けた「新 内容を説明した。「水戸レトロ建築の活用」は、三菱



「新聞マルシェ」シンポジウムで話し合う茨城大の学生と高校生＝水戸市文京の茨城大

レトロ建築活用、観光動画

東京U.F.J銀行水戸支店、旧水海道小本館、水戸商高旧本館など洋風建築6カ所の認知度向上を目指す。会員制交流サイト（SNS）を活用した写真コンテスト、ファッションショー、レトロ建築を模したスイーツ開発、建築物を巡り謎解きを進める体験型イベントを提唱した。

大学生はほかに、「常陸大宮市の買い物難民の解決」「笠間市の観光」を取り上げた。

県立石岡商高は、地元産品を使ったライスバーガーや四季のフルーツを使ったスイーツなど商品開発に取り組んでいることを報告。校章のキリの花から着想したキャラクターデザインを試作していることも明かした。

「常陸大宮市のツアープラン」に取り組む県立小瀬高は観光動画を上映した。旧山方町地区に絞り、山方宿駅、淡水魚館、舟納豆、三太の湯、山方城を巡る観光



新聞マルシェ 茨城大と茨城新聞社の連携事業で、大学図書館に2014年10月に開設された。全国の地方紙14紙が閲覧できる。一般市民も利用可能。大学生の出身地を考慮して選択された。14紙は茨城新聞、東奥日報、デイリー東北、岩手日報、秋田魁新報、河北新報、福島民報、福島民友、下野新聞、上毛新聞、神奈川新聞、山梨日日新聞、沖縄タイムス、琉球新報。

ビデオを撮影・編集した。解決の糸口を持ち帰る「フ県立竜ヶ崎二高は、地域 ユーチャーセンター」に本の課題を大人と一緒に考え一年度から取り組んでいるこ

とを説明。生徒は「高校生が接点となり人と地域をつなぐ場になっている」と述べた。

冒頭で、県広報監の取出新吾さんが「茨城のシティプロモーション」をテーマに講演した。茨城新聞社の沼田安広常務が「新聞マルシェと地方紙の役割」について説明した。（清水英彦）